

# 学校だより

重点目標 みんなでいっぽ

7月号

## 学校教育の推進

今年のこの時期は雨の日が多く、「梅雨らしい」と言われています。しかし、先日から台風が来たり、地震があったりと災害が身近です。学校でも年間を通して、災害や防災について学んでいるところです。知識を身につけ、自分の命を守る行動に移すことができるよう、日々の積み重ねが必要です。



子どもたちは、雨の合間をぬって校庭で遊んでいます。学校は、安全に過ごせるところであります。そのため、環境を整備し、学校での過ごし方の決まりもあり、みんなが守るように呼び掛けています。子どもたちが思い切り体を動かして遊ぶことは大いに推奨しますが、多くの仲間が安全に過ごせるように、一人一人がルールを守って行動できるとよいです。

先日、1年生が生活科の学習の一環で、各クラス3、4人ずつ校長室にインタビューに来ました。

問い「どんな仕事をしていますか」

答え「楽しい学校にするためにいろいろ考えて、先生たちとたくさん話し合いをしています」

問い「大変なことは何ですか」

答え「子どもたちが病気になったり、けがをしたりしたとき『大変だ』と思います。また、台風が来そうだというとき、みんなが登校できるかどうか考えて『大変だ』と思います」

その他、教室にはない校長室にある物やその使い道、なぜ職員室とつながっているのかなど、様々な質問を受けました。1年生の素朴な質問も、突き詰めると内容が深いと感じました。

また、6年生からも、国語の学習の一環で、インタビューを受けました。学校生活を積み重ねている6年生からは、次のような質問を受けました。

問い「学校の行事などは校長先生が決めているのですか」

答え「先生たちと一緒に決めています。一つ一つの行事がみんなにとって楽しいものになるよう、先生たちはとてもよくいろいろなことを考えています。それをもとに全ての先生が話し合っていて決めています」

問い「どのような人が校長室に来て話し合いをするのですか」

答え「先生をはじめ、PTAの方、学校設備の業者の方、地域の自治会の方など、とても多くの方が来ます。みなさん、子どもたちの成長を考えています」

何年仕事を続けているのですか」という問いに「三十数年間」答えると、予想外に驚いていました。教員としての心構えや、子ども自身の将来像にも触れることになり、様々なことを考えさせられる機会でした。学校教育は、学校の教職員だけではなく、保護者の皆様、その他多くの方の力を得て進められています。多くの方が関わることによって、バランスよく充実したものになるのだと、日々を振り返りあらためて感じました。

(校長)